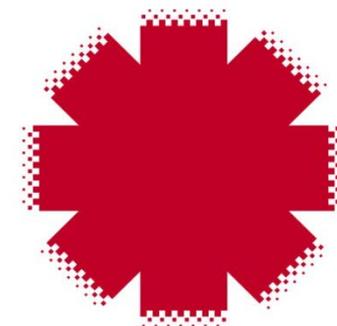


# 東燃ゼネラル石油株式会社

## 2011年12月期第1四半期決算概要

2011年5月13日



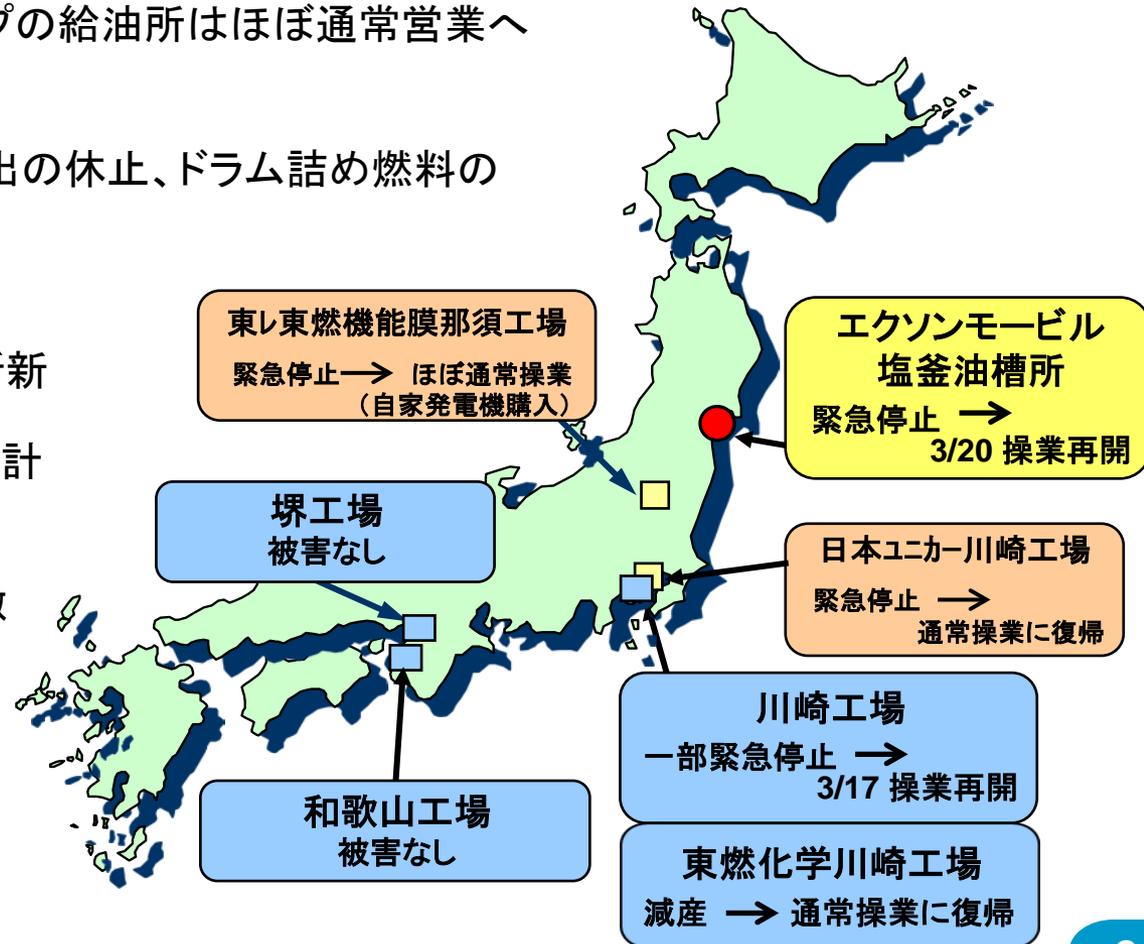
**Tonen General**

### 見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の現在の計画、見通しに関する事項は、日本および世界経済の動向、原油価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

# 東日本大震災による影響

- 人的被害: 負傷者なし / 全従業員の安全を確認
- 物的被害:
  - 川崎工場タンクの軽微な損傷のみ
  - 川崎工場で操業を一部緊急停止したが直ちに操業再開、二次装置も徐々に運転回復
  - 関連会社では停電による影響
  - エクソンモービル・ジャパングループの給油所はほぼ通常営業へ
- 燃料供給に向けて:
  - 被災地への安定供給努力の継続  
(西日本からの燃料転送、製品輸出の休止、ドラム詰め燃料の輸送、川崎工場での自家発電等)
- 被災地への寄贈(当社およびエクソンモービル株式会社):
  - 陸前高田市に4万リットル規模の斬新な仮設スタンド
  - 岩手/宮城/福島各県の自治体に合計100万リットルの燃料
- 収益への影響:
  - 数量減や経費増による影響は軽微

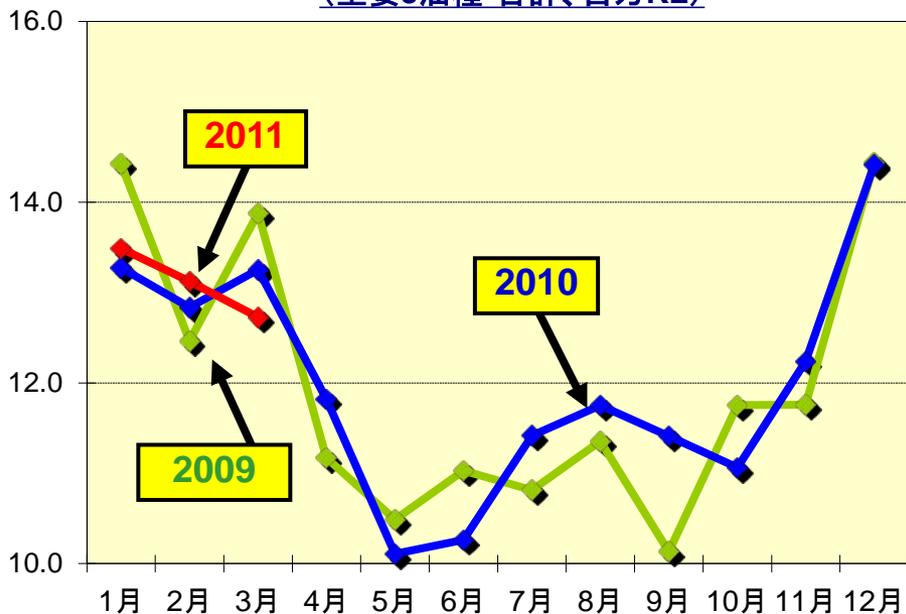


# 事業環境



- 東日本大震災の前後で国内石油製品需要環境に変化
  - 震災以前: 厳冬効果の影響もあり、2010年比緩やかな増加傾向
  - 震災以降: 弱含みの需要は4月も継続、4-6月期中には回復の兆し
- 2011年1-3月期の国内石油製品マージンは前年同期比では大幅改善、前期(2010年10-12月期)比では緩やかな変化
  - 原油価格の上昇は、概ね石油製品価格に反映
  - 震災以前の製品輸出市場は、高い収益性
- 石油化学製品マージンは、2010年10-12月期と比較して更に増加

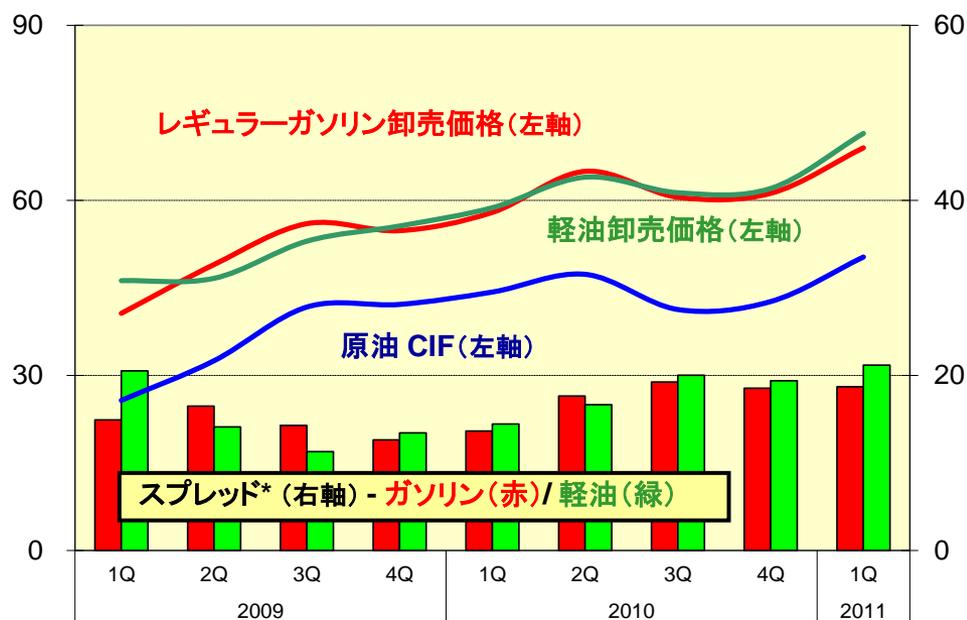
国内石油製品需要の推移(2009年～)  
(主要5油種\*合計、百万KL)



\* ガソリン/軽油/灯油/A重油/C重油

出典: 経済産業省「資源エネルギー統計」

原油と石油製品の価格推移(円/リットル)



\* スプレッド: 卸売価格 - 原油CIF

注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 連結決算ハイライト

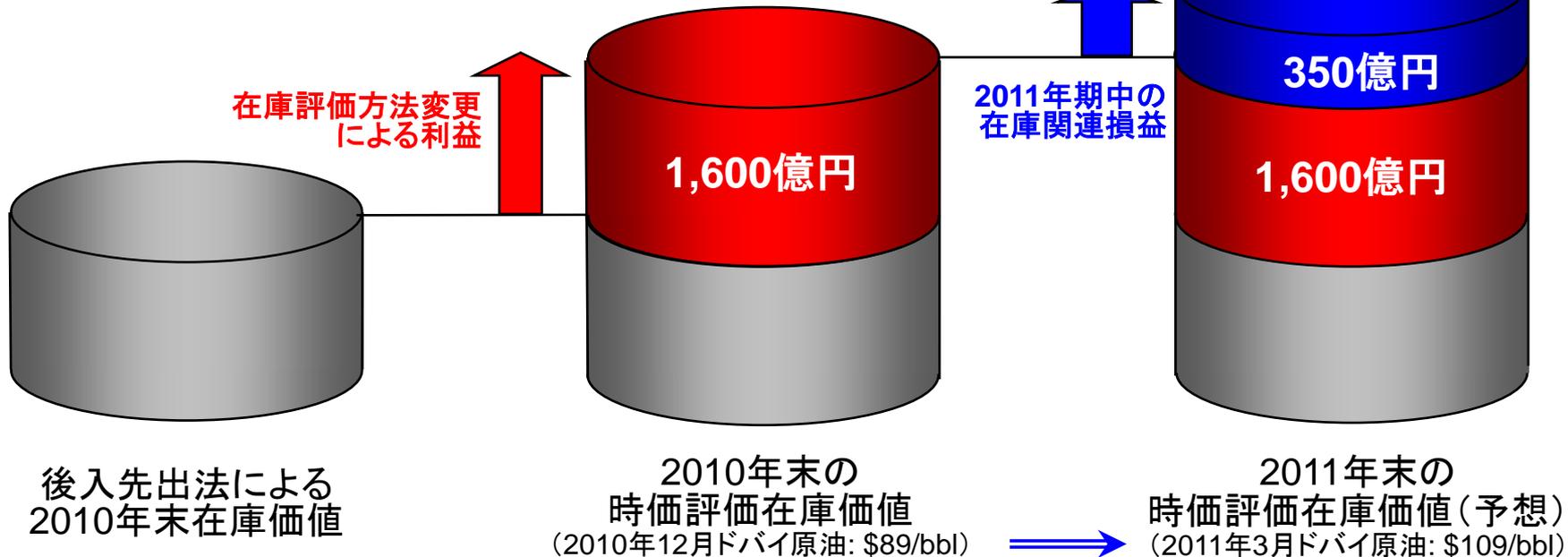
- ❑ 売上高は、主に原油価格の上昇を反映して、前年同期比813億円の増加
- ❑ 2011年1-3月期の営業利益は1,911億円(前年同期比1,728億円の増加)で、主に評価方法変更による在庫関連利益1,732億円が含まれる
- ❑ 特筆すべき営業外損益や特別損益はなし
- ❑ 在庫関連利益等を除いた調整後営業利益は179億円で、前年同期比162億円増加

(億円)	'10 1-3月期	'11 1-3月期	増減
売上高	5,869	<b>6,681</b>	813
営業利益	184	<b>1,911</b>	1,728
経常利益	186	<b>1,913</b>	1,727
特別損益	203	<b>-4</b>	-206
当期純利益	316	<b>1,135</b>	819
<hr style="border-top: 1px dashed gray;"/>			
在庫関連利益の調整	<b>-187</b>	<b>-1,732</b>	<b>-1,545</b>
原油コスト認識時点の差による影響額の調整	20	-	-20
<b>調整後営業利益</b>	<b>17</b>	<b>179</b>	<b>162</b>
↳ 石油部門	-48	<b>107</b>	155
↳ 石油化学部門	64	<b>72</b>	8

# 2011年の在庫関連利益

- 2011年の在庫関連利益は二つの要素から成り立っている:
  - 1) 在庫評価方法変更による利益: 2010年12月の価格水準にて後入先出法から総平均法へ再評価
  - 2) 期中の在庫関連損益: 期中の総平均法による在庫関連損益は、期中の原油価格変動に因る

2011年の在庫関連損益(億円)		
	'11 1-3月期 実績	2011年 通期予想
1) 在庫評価方法変更による利益	1,496	1,600
2) 期中の在庫関連損益	236	350
合計	1,732	1,950

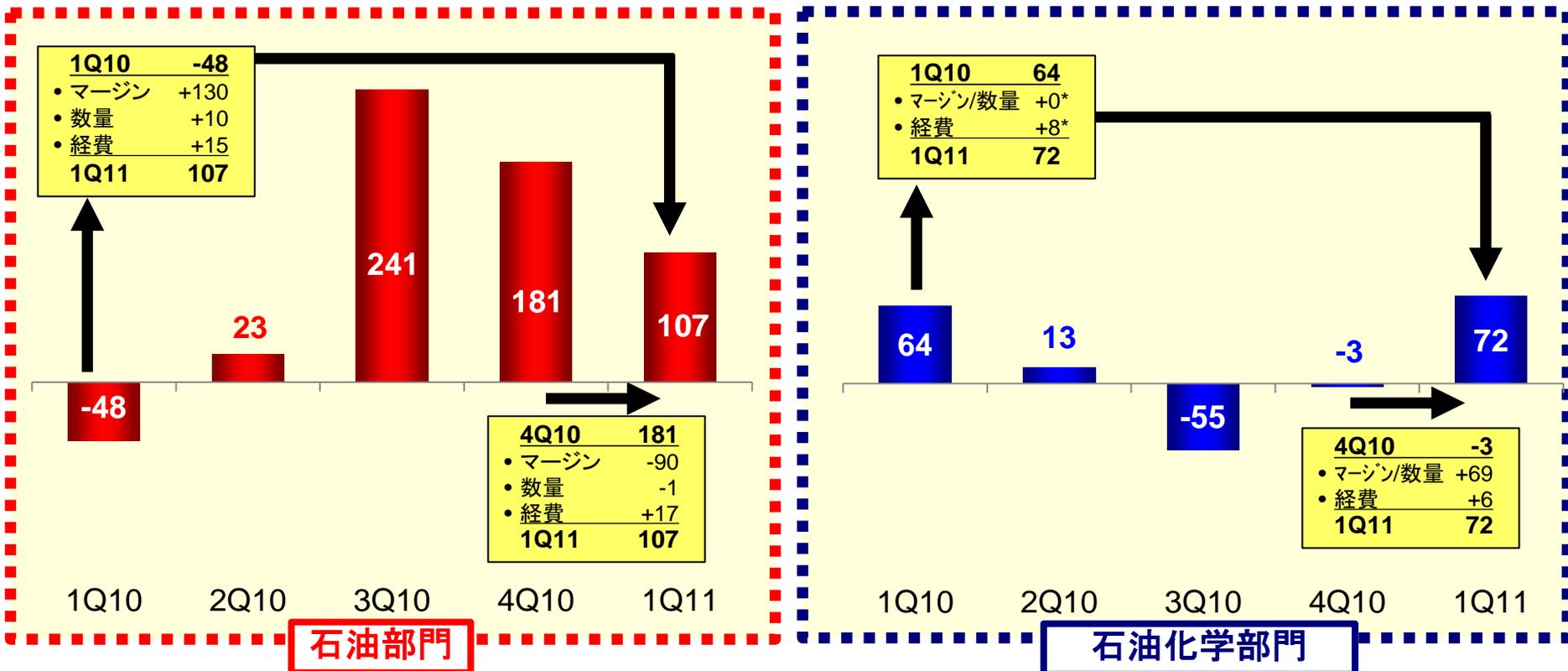


# 連結営業利益増減の要因分析

- 1-3月期の石油製品マージンは、2月に発表した予想水準とほぼ同様で、前年同期比大幅に改善
- 1-3月期の石油化学製品マージンは、四半期では2008年7-9月期以来の高水準
- 2010年10-12月期と比較して、石油部門と石油化学部門では対照的な動き; 石油製品マージンは減少、石油化学製品マージンは継続して回復

## 調整後営業利益の四半期比較(2010年1-3月期～2011年1-3月期)

(億円)



\* BSF事業子会社が連結対象から外れた影響額を調整

# 販売数量



TonenGeneral

- 2011年1-3月期の国内販売は、ほぼ業界水準並み
  - 中間留分比率が高く、重油留分比率が低い原材料構成に伴った製品の生産と販売
- 製品輸出は震災まで好調に推移していたが、震災以降は休止
- 2011年1-3月期の和歌山工場BTXプラント定期修理の影響により、芳香族類の販売数量は減少

## 石油製品\*

(千KL)		'10 1-3月期	'11 1-3月期	増減	国内全体 増減****
日本国内での販売	ガソリン	2,517	<b>2,501</b>	-0.6%	-1.0%
	灯油	898	<b>938</b>	+4.5%	+1.3%
	軽油	721	<b>743</b>	+3.1%	-0.7%
	A重油	542	<b>553</b>	+2.1%	-4.4%
	C重油	446	<b>398</b>	-10.8%	+6.7%
	主要5油種合計	5,124	<b>5,134</b>	+0.2%	-0.1%
	LPG・ジェット・その他	707	<b>884</b>	+25.0%	
	小計	5,831	<b>6,018</b>	+3.2%	
	輸出**	797	<b>830</b>	+4.1%	
	その他***	725	<b>738</b>	+1.8%	
石油製品合計	7,353	<b>7,586</b>	+3.2%		

注記:  
 \* 連結ベース、バーターを除く  
 \*\* 保税販売を除く  
 \*\*\* 潤滑油、原油、国内のエクソンモービルグループ内の転送取引などを含む  
 \*\*\*\* 出典: 経済産業省「資源エネルギー統計」

設備稼働率(常圧蒸留装置ベース) **72%**      **73%**

## 石油化学製品 (連結ベース)

(千トン)オレフィン類他(東燃化学分)	418	<b>419</b>	+0.1%
芳香族類他(東燃ゼネラル分)	202	<b>188</b>	-6.8%
石油化学製品合計	620	<b>607</b>	-2.1%

# 2011年連結業績予想

- 2011年の連結営業利益予想を2月発表から400億円上方修正
  - 350億円は、在庫関連利益の増加(ドバイ原油価格は2010年12月に89ドル/バレルであったのに対し、2011年3月は109ドル/バレル)
  - 50億円は、2011年1-3月期の実績を踏まえた石油化学部門の営業利益の増加
- 東日本大震災による業績への影響は軽微

(億円)	実績 1-3月期	業績予想(今回)		2月発表比増減	
		1-6月期	'11通期	1-6月期	'11通期
売上高	6,681	13,000	28,000	-	2,000
営業利益	1,911	2,180	2,400	400	400
経常利益	1,913	2,190	2,420	400	400
特別損益	-4	0	0	-	-
当期純利益	1,135	1,300	1,450	230	240
<hr/>					
在庫関連利益の調整	-1,732	-1,930	-1,950	-350	-350
調整後営業利益	179	250	450	50	50
↳ 石油部門	107	150	300	-	-
石油化学部門	72	100	150	50	50

# 2011年連結業績予想の変動要因とその影響額

## □ 今回の業績予想の前提

主な項目	単位	前提	注記
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル / バレル	109	2011年3月平均
為替レート	円 / 米ドル	82	2011年3月平均

上記前提は、売上高および在庫関連損益の計算に使用

## □ 前提の変化に伴う営業利益への影響額(年間換算)

主な項目	単位	上昇幅	年間換算影響額(億円)
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル / バレル	10	180* <sup>1</sup>
為替レート	円 / 米ドル	10	- 240* <sup>1</sup>
石油精製マージン	円 / リットル	1	300* <sup>2</sup>

\*<sup>1</sup> 在庫関連損益の影響のみ。原油価格変動のタイミングや在庫数量によっては異なる結果となりうる

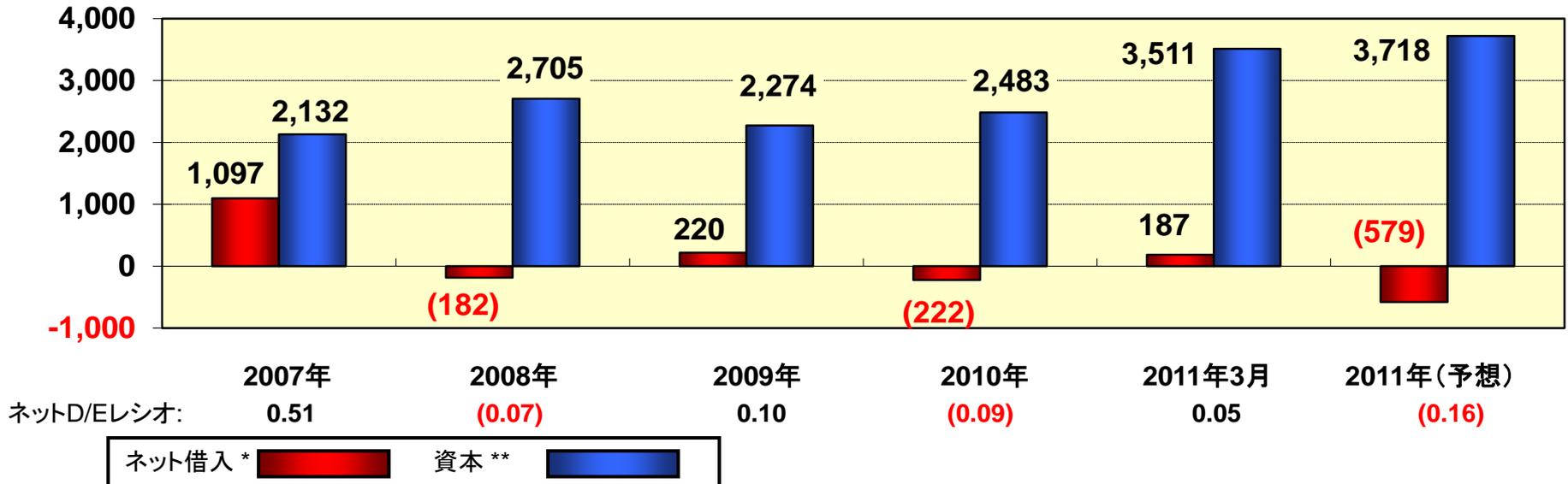
\*<sup>2</sup> 営業利益への年間影響額は10億円単位の概算であり、販売数量の増減によっては異なる結果となりうる

# キャッシュ・フロー、D/Eレシオ

(億円)		'11 1-3月期
<b>営業活動</b>		<b>-285</b>
税引前純利益		1,909
たな卸資産の増減額		-1,851
減価償却費		63
運転資本の増減等		-406
<b>投資活動</b>		<b>-23</b>
<b>財務活動</b>		<b>306</b>
借入金の減少等		407
配当金の支払		-101

- 揮発油税等の支払い時期のズレにより、2011年3月末ネット借入金は増加
- 在庫評価益に伴う資本の増加でさらに強固なD/Eレシオ
- 業界一強固な財務体質を維持
- 安定した配当と高い利回り

(億円) 期末のネット借入および資本 (2007年-2011年予想)



\* 現預金・貸付金等の影響を除いた借入金 \*\* 少数株主持分を除く純資産

## 參考資料

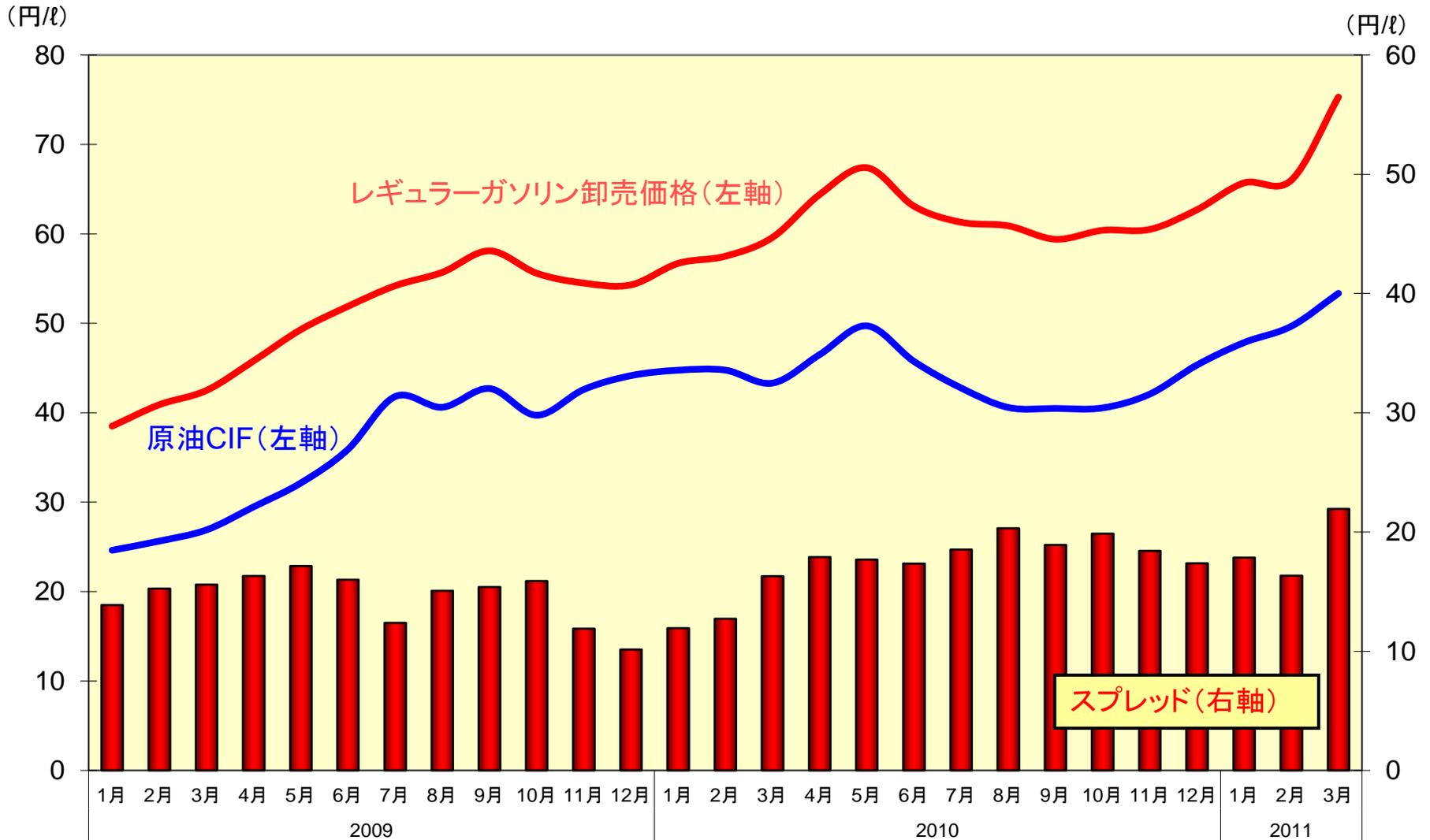
---

# 連結決算ハイライト – 当期純利益の比較

- 2011年1-3月期の当期純利益は、前年同期比819億円の増加:
  - 主に在庫評価方法の変更に伴う在庫関連収益の増加(916億円)
  - 石油部門および石油化学部門での増益
  - 2010年1-3月期に計上した特別利益が当四半期にないことにより一部相殺
- 在庫関連損益や特別損益等を除いた2011年1-3月期の調整後当期純利益は110億円(前年同期比95億円の増加)

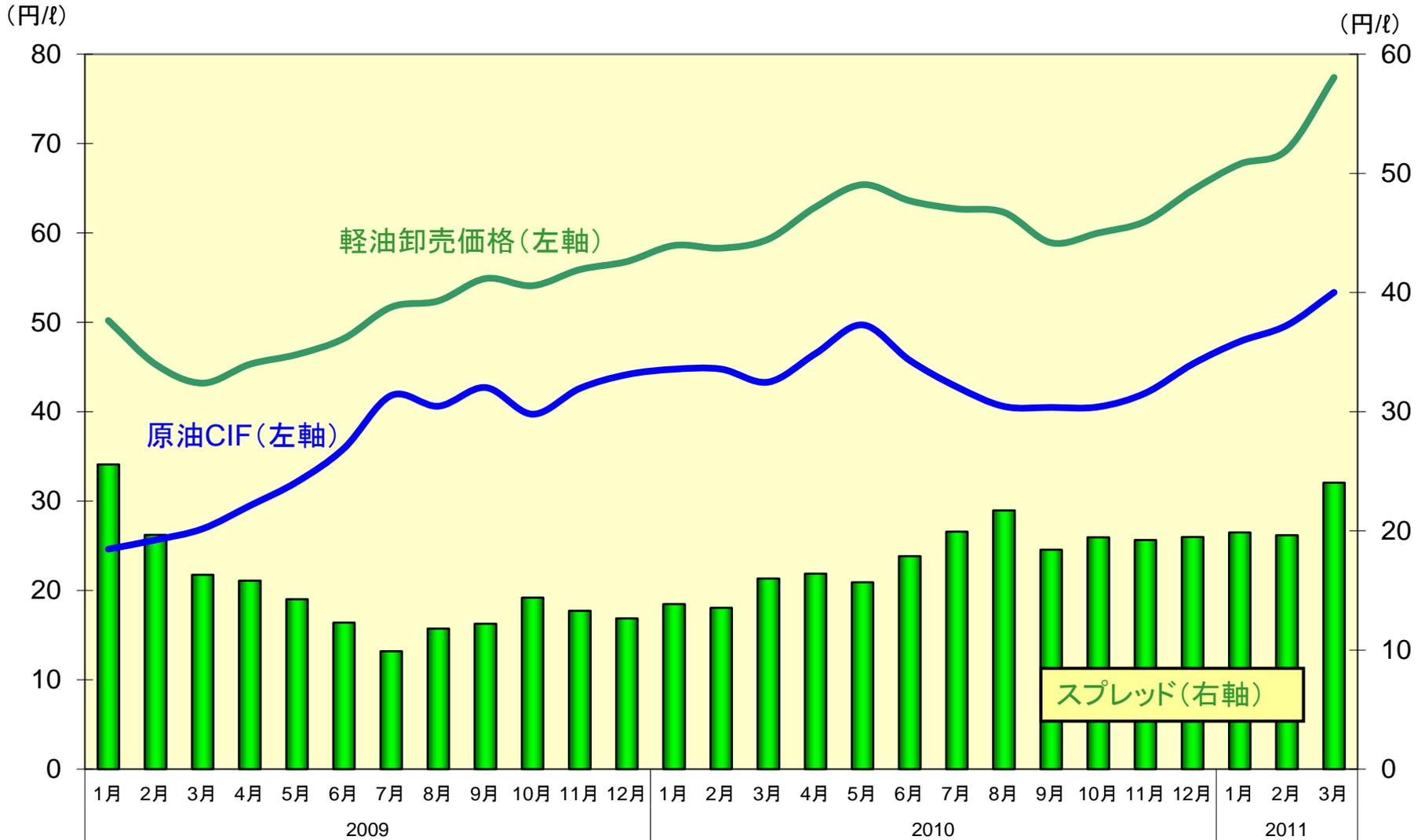
(税引後 – 億円)	'10 1-3月期	'11 1-3月期	増減
当期純利益	316	1,135	819
調整項目(税引後):			
在庫関連利益	-111	-1,027	-916
原油コスト認識時点の差による影響額	12	-	-12
特別損益	-202	2	204
<b>調整後当期純利益</b>	<b>15</b>	<b>110</b>	<b>95</b>
参考:			
調整後営業利益(税引前)	17	179	162

# 価格スプレッド (ガソリン卸売価格 - 原油CIF)



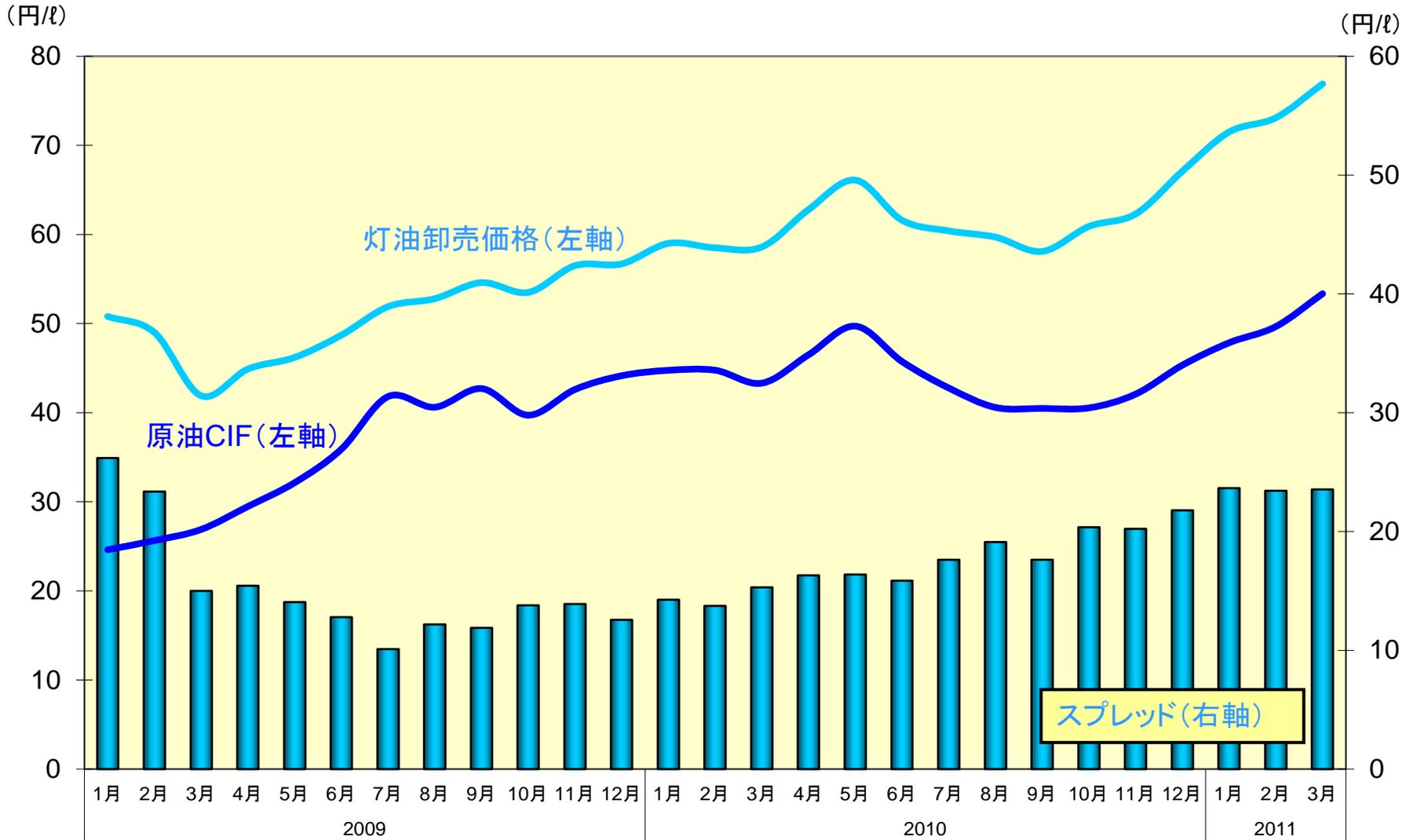
注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド（軽油卸売価格 – 原油CIF）



注：石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド (灯油卸売価格 – 原油CIF)



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 営業利益の詳細（2009年～2011年1-3月期）

## 2011年

(単位: 億円)

営業利益内訳	'11 1-3月期	'11 4-6月期	'11 7-9月期	'11 10-12月期	'11 通期	'10 1-6月期	'10 1-9月期
石油部門 (実質)	107						
石油化学部門 (実質)	72						
在庫関連損益	1,732						
総合計	1,911						

## 2010年

営業利益内訳	'10 1-3月期	'10 4-6月期	'10 7-9月期	'10 10-12月期	'10 通期	'10 1-6月期	'10 1-9月期
石油部門 (実質)	-48	23	241	181	397	-25	217
石油化学部門	64	13	-55	-3	20	78	23
在庫関連損益	187	-94	40	-135	-2	93	133
原油コスト認識時点の差による影響	-20	10	50	-120	-80	-10	40
総合計	184	-47	276	-77	335	136	412

## 2009年

営業利益内訳	'09 1-3月期	'09 4-6月期	'09 7-9月期	'09 10-12月期	'09 通期	'09 1-6月期	'09 1-9月期
石油部門 他 (実質)	225	-74	-130	-129	-108	151	22
石油化学部門	-23	21	29	11	38	-2	27
在庫関連損益	18	54	23	-21	74	72	95
原油コスト認識時点の差による影響	-90	-240	50	-70	-350	-330	-280
総合計	131	-239	-27	-210	-346	-109	-136